

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">微生物学</p>	<p>対象学科・学年 薬学部薬学2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">谷 佳津治</p>
<p>授業テーマ</p> <p>病原微生物学および環境微生物学の基礎を習得する。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>微生物は、あらゆる生物圏に生息し、有する機能・性状は極めて多様である。しかもその機能・性状は突然変異・遺伝子伝播により変化する。これらの特徴により、微生物はヒトにとって有用な生物であるとともに、容易に克服できない感染症などの問題を引き起こすやっかいな生物でもある。本講義では、微生物学の基礎について説明し、ヒトと微生物の関係について考える。</p>		
<p>評価方法</p> <p>期末試験に平常点を加味する。なお、必要に応じて中間試験を行う。</p>		
<p>テキスト</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>標準微生物学（第9版） Brock “Biology of Microorganisms”（第10版）</p>	<p>著者</p> <p>山西弘一監修 Madigan., M. T. <i>et al.</i></p>	<p>出版社</p> <p>医学書院 Prentice Hall</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 総論（Ⅰ）：ヒトと微生物 2) 総論（Ⅱ）：機能、構造、生物学的位置 3) 滅菌と消毒：物理的滅菌、化学的滅菌 4) 計数と検出（Ⅰ）：培養法、直接法 5) 計数と検出（Ⅱ）：分子生物学的手法、免疫学的手法 6) 感染症（Ⅰ）：感染と発症 7) 感染症（Ⅱ）：主な食中毒原因微生物 8) 感染症（Ⅲ）：主な細菌性感染症 9) 感染症（Ⅳ）：日和見感染、院内感染、輸入感染症 10) 抗生物質と耐性菌（Ⅰ）：遺伝子伝達 11) 抗生物質と耐性菌（Ⅱ）：抗生物質耐性機構 12) リケッチア・クラミジア：リケッチア・クラミジアによる感染症 13) 真核生物：真菌感染症・原虫感染症 14) ウイルス（Ⅰ）：構造と機能 15) ウイルス（Ⅱ）：ウイルス感染症 		